



## 2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月13日

上場会社名 株式会社 岡本工作機械製作所

上場取引所 東

コード番号 6125 URL <http://www.okamoto.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石井 常路

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 高橋 正弥

TEL 027-385-5800

四半期報告書提出予定日 2019年11月14日

配当支払開始予定日

2019年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	17,295	9.5	1,498	8.9	1,322	19.3	1,075	16.9
2019年3月期第2四半期	15,792	14.9	1,376	72.5	1,108	59.3	919	78.9

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 900百万円 (22.6%) 2019年3月期第2四半期 1,164百万円 (54.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	268.67	
2019年3月期第2四半期	223.02	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	35,341	13,216	37.4
2019年3月期	36,627	12,557	34.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 13,216百万円 2019年3月期 12,557百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		40.00		60.00	100.00
2020年3月期		50.00			
2020年3月期(予想)				50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,000	0.2	3,000	23.7	2,850	19.1	2,200	31.8	549.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	4,717,895 株	2019年3月期	4,717,895 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	714,396 株	2019年3月期	713,935 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	4,003,773 株	2019年3月期2Q	4,124,314 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(セグメント情報) .....	9
3. 補足情報 .....	10
受注及び販売の状況 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、総じて堅調に推移いたしました。しかし米中貿易摩擦の激化、欧州でのBREXITの懸念などの影響により景気の先行きに不透明感が増す状況となりました。

わが国経済は、雇用情勢の改善や消費増税前の駆け込み需要等により、個人消費は緩やかに回復しましたが、世界経済の減速を背景に、企業活動に弱さがみられました。

このような状況の中で当社グループは、中期経営計画「SHINKA 2022」の下、マーケティング体制の強化による拡販、サービス体制の拡充等に努めてまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は17,295百万円（前年同期比9.5%増）、営業利益は1,498百万円（前年同期比8.9%増）、経常利益は1,322百万円（前年同期比19.3%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,075百万円（前年同期比16.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①工作機械

国内市場におきましては、前期の受注が幅広い業種において好調であったため、売上高は前年同期を上回りました。受注につきましては、工作機械業界向けの大型平面研削盤や、電子部品業界、金型業界向けの成型研削盤は堅調に推移いたしました。経済活動の先行き不透明感により設備投資意欲に陰りが見られ、好調であった前年同期を下回りました。

海外市場におきましては、米国では、新型の平面研削盤や円筒研削盤の受注は堅調に推移したものの、受注、売上ともに前年同期を上回ること出来ませんでした。欧州では、売上はイタリア、ポーランドを中心に堅調に推移し、前年同レベルとなりましたが、受注は米中貿易摩擦やBREXITの懸念で不安定な経済状況が影響し、前年同期を下回りました。中国では、通商政策の影響で設備投資の慎重な姿勢がさらに強まり、販売、受注共に前年同期を下回りました。

以上の結果、売上高は12,257百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は844百万円（前年同期比19.8%減）となりました。

#### ②半導体関連装置

半導体市場におきましては、データセンター向け設備投資やスマートフォン需要は調整局面が継続しているものの、中長期的にはIoTとAI技術の進化や次世代通信規格5Gといった技術革新を背景にしたメモリ向け投資の需要拡大が見込まれております。

このような状況の中で当社グループは、ポリッシュ装置や次世代パワー半導体用各種装置の販売増加に向けて、プロセス開発などの諸施策を前期より継続してまいりました。その結果、国内、東アジアにおいて、ウェーハ生産用のファイナルポリッシャーが売上に大きく貢献いたしました。受注につきましては、半導体業界の設備投資に慎重な姿勢が継続したため、前年同期を下回りました。

以上の結果、売上高は5,038百万円（前年同期比51.2%増）、セグメント利益（営業利益）は1,119百万円（前年同期比47.2%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して1,285百万円減少し、35,341百万円となりました。主な要因は、たな卸資産が1,511百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が2,746百万円、現金及び預金が484百万円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比較して1,944百万円減少し、22,125百万円となりました。主な要因は、短期借入金が299百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が782百万円、その他流動負債が978百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。）が611百万円減少したことによるものであります。

また、純資産は、前連結会計年度末と比較して659百万円増加し、13,216百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が165百万円減少した一方で、利益剰余金が、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加1,075百万円、配当金の支払いによる減少240百万円により835百万円増加したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末の34.3%から37.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して493百万円減少し、3,798百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、882百万円（前年同期は2,358百万円の獲得）となりました。これは主に、たな卸資産の増加1,602百万円や仕入債務の減少792百万円、前受金の減少891百万円により資金が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益1,322百万円、売上債権の減少2,680百万円により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、620百万円（前年同期は621百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出587百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、689百万円（前年同期は1,331百万円の使用）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額343百万円により資金が増加した一方で、長期借入金の返済による支出611百万円、配当金の支払いによる支出237百万円により資金が減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績につきましては、2019年5月15日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,363	3,879
受取手形及び売掛金	10,329	7,583
商品及び製品	1,954	2,538
仕掛品	5,331	6,297
原材料及び貯蔵品	2,697	2,659
その他	316	459
貸倒引当金	△50	△42
流動資産合計	24,943	23,375
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,774	3,698
機械装置及び運搬具(純額)	2,525	2,530
その他(純額)	3,462	3,807
有形固定資産合計	9,762	10,036
無形固定資産	76	87
投資その他の資産		
投資有価証券	82	79
退職給付に係る資産	539	601
その他	1,256	1,196
貸倒引当金	△35	△34
投資その他の資産合計	1,844	1,841
固定資産合計	11,683	11,966
資産合計	36,627	35,341
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,085	5,302
短期借入金	6,000	6,299
1年内返済予定の長期借入金	1,180	1,124
未払法人税等	296	179
賞与引当金	409	530
製品保証引当金	52	54
その他	4,471	3,492
流動負債合計	18,496	16,983
固定負債		
長期借入金	3,771	3,216
退職給付に係る負債	744	780
資産除去債務	123	123
その他	934	1,021
固定負債合計	5,573	5,142
負債合計	24,069	22,125

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,880	4,880
利益剰余金	11,023	11,859
自己株式	△3,075	△3,076
株主資本合計	12,829	13,663
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	△3
為替換算調整勘定	△432	△598
退職給付に係る調整累計額	160	154
その他の包括利益累計額合計	△271	△446
純資産合計	12,557	13,216
負債純資産合計	36,627	35,341

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	15,792	17,295
売上原価	10,750	11,890
売上総利益	5,042	5,404
販売費及び一般管理費	3,666	3,906
営業利益	1,376	1,498
営業外収益		
受取利息	2	9
受取配当金	1	1
助成金収入	2	9
物品売却益	14	13
その他	16	11
営業外収益合計	37	45
営業外費用		
支払利息	119	91
支払手数料	142	8
為替差損	10	92
その他	31	28
営業外費用合計	304	221
経常利益	1,108	1,322
税金等調整前四半期純利益	1,108	1,322
法人税等	188	246
四半期純利益	919	1,075
親会社株主に帰属する四半期純利益	919	1,075



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	919	1,075
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△4
為替換算調整勘定	247	△165
退職給付に係る調整額	△3	△5
その他の包括利益合計	244	△175
四半期包括利益	1,164	900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,164	900

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,108	1,322
減価償却費	570	637
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	18	24
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△90	△61
賞与引当金の増減額 (△は減少)	108	123
受取利息及び受取配当金	△3	△10
支払利息	119	91
支払手数料	142	8
為替差損益 (△は益)	12	69
売上債権の増減額 (△は増加)	436	2,680
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,746	△1,602
その他の資産の増減額 (△は増加)	△103	△123
仕入債務の増減額 (△は減少)	978	△792
前受金の増減額 (△は減少)	1,059	△891
その他の負債の増減額 (△は減少)	8	△193
その他	0	△8
小計	2,617	1,275
利息及び配当金の受取額	3	10
利息の支払額	△111	△89
法人税等の支払額	△159	△314
法人税等の還付額	8	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,358	882
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△7	△9
有形固定資産の取得による支出	△595	△587
その他	△18	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△621	△620
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,438	343
長期借入れによる収入	3,100	-
長期借入金の返済による支出	△805	△611
リース債務の返済による支出	△105	△166
自己株式の取得による支出	△1,702	△1
手数料の支払による支出	△138	△7
配当金の支払額	△218	△237
その他	△24	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,331	△689
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	△65
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	453	△493
現金及び現金同等物の期首残高	3,455	4,291
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,909	3,798

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国を除く海外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表上に資産及び負債として認識しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,461	3,330	15,792	—	15,792
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,461	3,330	15,792	—	15,792
セグメント利益	1,053	760	1,813	△436	1,376

(注) 1. セグメント利益の調整額△436百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,257	5,038	17,295	—	17,295
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,257	5,038	17,295	—	17,295
セグメント利益	844	1,119	1,963	△465	1,498

(注) 1. セグメント利益の調整額△465百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

受注及び販売の状況

(1) 受注状況

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
工作機械	11,047	69.8	11,333	81.1
半導体関連装置	1,389	15.9	8,071	51.6
合計	12,437	50.7	19,405	65.5

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

セグメントの名称	販売高 (百万円)	前年同期比 (%)
工作機械	12,257	98.4
半導体関連装置	5,038	151.2
合計	17,295	109.5

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。